

9月	モニターレポート	担当出張所	伏見出張所
担当区間	国道1号宇治川大橋～三川合流部背割堤（34.6km～42.4km）		
モニター実施日時	令和元年9月17日 10時～11時30分		
天候	晴れ		

(見出し)

- 1 三川合流部背割堤周辺で、モニター活動を実施する。
- 2 宇治川、木津川等を見て、これらの河が決壊した時、地域の水位はどれぐらいの高さになるのかと、小生の住まい地域を例にとり、考えてみる。

(内容)

宇治川ごこう橋たもとの表示を見ると、橋の左右に淀川、ごこうばしと書かれている。川は宇治川であるが、橋の袂の石柱に淀川と彫られている。三川合流後に淀川となるのであるが、なぜでしょうか、不思議に思いました。何らかの説明が、どこかで必要なではありませんか。

また、同じ地点での案内板表示は、宇治川と書かれています。これも不思議でした。

以前、桂川付近でモニター活動をしていた際、橋の両側とも、天王山大橋と書かれていたことをおもいだしました。このことも不思議に思ったことでした。



ごこう橋 石塔



ごこう橋付近 案内板（宇治川と表示）

背割堤の先端展望台に向かいました。左岸堤防サイクリング道（宇治川）では、宇治川が見られない草原がひろがっています。その途中に草を踏みつけて出来たと思われる道がありました。

その周辺には看板等なく、危険箇所と見られます。小生、少し、道らしきところを進みましたが、すぐに引き返しました。何か対応が必要と考えます。

#### サイクリング道の途中で発見



八幡市のふれあいであい館展望台からは、ごこう橋下流に広い駐車場が目に入ります。

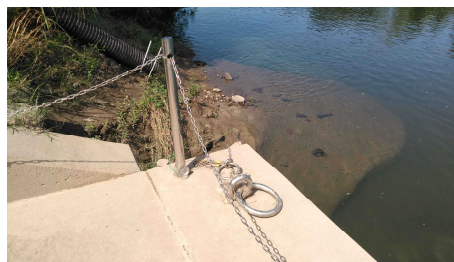
その辺りは、観光地でもあることから、よく整備がなされているようです。

しかし、その駐車場から左岸堤防下流に向かってすぐ隣の場所と思いますが、危険と思われる場所があります。水際がコンクリートで出来ており、しっかりした防護対策がなされていないように思われます。

#### 防止対応としては不十分



#### 防止対策としては不十分



河川周辺の整備等へのモニター活動は、河川愛護の面で大変重要と考えます。

しかし、台風、ゲリラ豪雨、地震等、一年を通して自然災害による被害が増大しています。日本の原風景は、少しずつ崩壊の一途を辿っているようです。

国及び各関係機関の施策は第一義ではありますが、その施策の提供を受ける私も含めた住民個々の高い意識の無さが大きな被害を生む一つの原因ではないかと危惧いたします。

先日、自宅の隣の町内の電柱をなにげなく見上げてみると、白い金属板に「想定浸水深」5.9m、国土交通省近畿地方整備局、淀川河川事務所、最後に宇治市と表示されていました。

これは、国からの注意喚起であります。強い啓発活動の実施が必要であり、いかにすれば住民をその気にさせられるかということです。先の表示はまさに強いメッセージだと思います。

宇治川が氾濫すると・・・・・・と言う警告です。浸水にかかる時間も示して戴ければ危機意識は高まるものと考えます。



電柱表示を見て、我が家の一階は全滅。命は、2階に預けることと致しました。2階もダメかな、考えさせられる表示でありました。

#### (意見・感想・処置等)

淀川は、琵琶湖の南端から始まり、滋賀県・京都府・大阪府を流れ大阪湾に注ぐ一級河川です。河川法上の正式名称としては、全区間、「よどがわ」となりますが、通称として、滋賀県区間は「せたがわ」、京都府区間（三川合流地点まで）は「うじがわ」が使用されています。ちなみに、河川名看板の表示では、八幡市・久御山町区間では「よどがわ」と、京都市・宇治市区間では「うじがわ」となっています。

水際がコンクリートとおっしゃっている箇所は、船着き場として河川管理者が管理しており、立ち入り禁止のためにチェーンを張っています。

次回もレポート、よろしくお願い致します。